

おつきさまこんばんは



林明子 福音館書店 1986

絵本作家の林明子さんが、この夏お亡くなりになりました。
50年以上作家として活躍されたので、親子で絵本に親しまれた方も多いのではないのでしょうか？
今回は林明子さんの絵本の魅力について紹介します。

傷むページ

児童館勤務時代の経験ですが、『おつきさまこんばんは』ではとあるページが傷みがちでした。どこかわかりますか？それは、雲がお月様を隠してしまう箇所です。赤ちゃんたちは、雲さえなければお月様がみえると思って一生懸命に引っ張っていました。

動き出しそうなこどもたち

絵のモデルを姪御さんや作家さんのお嬢さんなどが務められていました。しぐさやふっくらとした手などは、今にも動き出して絵本から出てきそうです。

あの絵本の子ども？

絵をよく見ると、ある絵本の主人公が別の絵本の挿絵の中にいることがあります。また、『はじめてのおつかい』では迷子のペットの張り紙で探されているペットが屋外をうろうろ、習い事のお教室の先生の名前が〇〇…文を読んでしまいがちな大人は気づきにくいことです。

こどもだましではなく、いつか大人になるこどもたちと真摯に向き合い本物を届けてこられた林明子さん。大人の皆さんもちょっと息抜きに絵本を読んでみませんか？